

今日は学術祭です！

今日は学術祭です。さて、そこで学術について調べてみました。

【学術とは】

「研究者の知的探究心や自由な発想に基づき自主的・自律的に展開される知的創造活動（学術研究）とその所産としての知識・方法の体系」であり、人類の知的探究心を満たすとともに、それ自体が知的・文化的価値を有するものである。

僕が考えるキーワードは「自由な発想」「知的創造活動」「知的探究心」「知的・文化的価値」だと思います。それではもう少し考察してみましょう！

1. 学術する心

みなさんは「学術」という言葉を聞いてどんなイメージを持ちますか？そして、どんな意味だと思いますか。語源をたどってみると『**「学」は真似び学ぶこと、「術」は道を進むための手段や技**』を意味するそうです。つまり、**先人たちが積み上げた知恵をバトンとして受け取り、自分なりの「問い」という武器を持って、新しい道へ一歩踏み出すこと、それが学術**です。

君たちが習っている古典物理学を完成させた近代科学の父、アイザック・ニュートンは、自身の成功についてこう語りました。「私が遠くを見ることができたのは、巨人の肩に乗っていたからです。」

皆さんが取り組んだ研究も、実は同じです。皆さんが使った教科書の知識、インターネットで調べた先行研究、先生から教わった分析手法。これらすべてが、これまで人類が積み上げてきた「知恵という名の巨人」です。

皆さんはゼロから全てを作り出したのではありません。先人たちが必死に積み上げてきた肩の上に立ち、そこからさらに数センチ先にある「まだ誰も見たことがない景色」を覗き込もうとしたのです。

今日の「学術祭」で発表する内容は、今度は皆さんの後に続く誰かにとっての「肩」の一部になります。「学術」とは、そうやって知恵を繋ぎ、より遠くを見ようとする終わりのない旅です。自信を持って、皆さんが巨人の肩の上から見つけた「新しい景色」を新しい世代に伝えてください（具体的には1年生だね！）

2. 研究って楽しかったでしょ！

みなさんは、今日を迎えるまで「あーでもない、こーでもない」と頭を抱えた日もあったはずです。古代ギリシャの数学者アルキメデスは、王冠の謎を解くヒントをお風呂の中で見つけたとき、あまりの喜びに裸のまま街へ飛び出し、「エウレカ！（分かったぞ!!）」（Eureka!）と叫んだといわれています。

そこまで極端ではなくても、データが予想と一致したとき、思わぬ結果に驚いたとき、あるいは複雑な事象に一つの法則を見つけたとき、皆さんの心の中にも小さな「エウレカ！」が芽生えたのではないのでしょうか。その一瞬の震えるような喜びこそが、研究の楽しさなのです。

しかし、そのひらめきは、何もないところから生まれたわけではありません。アルキメデスの「エウレカ」も、ニュートンの大発見も、先人たちが積み上げた膨大な知識という「巨人」の肩の上に立ったからこそ、たどりつけた景色でした。皆さんの研究も、先行研究を調べ、文献を読み込み、そして**絶えず「なぜだろう」と考えつづける**ことが「エウレカ」に繋がるのです。

今日の「学術祭」は、みなさんが見つけたその「エウレカ」を、多くの人に、特に1年生に伝えてください。最初は小さな発見かもしれませんが、でも、ニュートンの言葉を借りれば、皆さんの発表もまた、次の世代がより遠くを見るための「巨人の肩」の一部になってり、後輩たちに、さらには他校の研究仲間たちに伝わっていきます。

著作権の関係上
画像を記載して
いません

「学術」という名にふさわしい、誇り高い発表を期待しています！